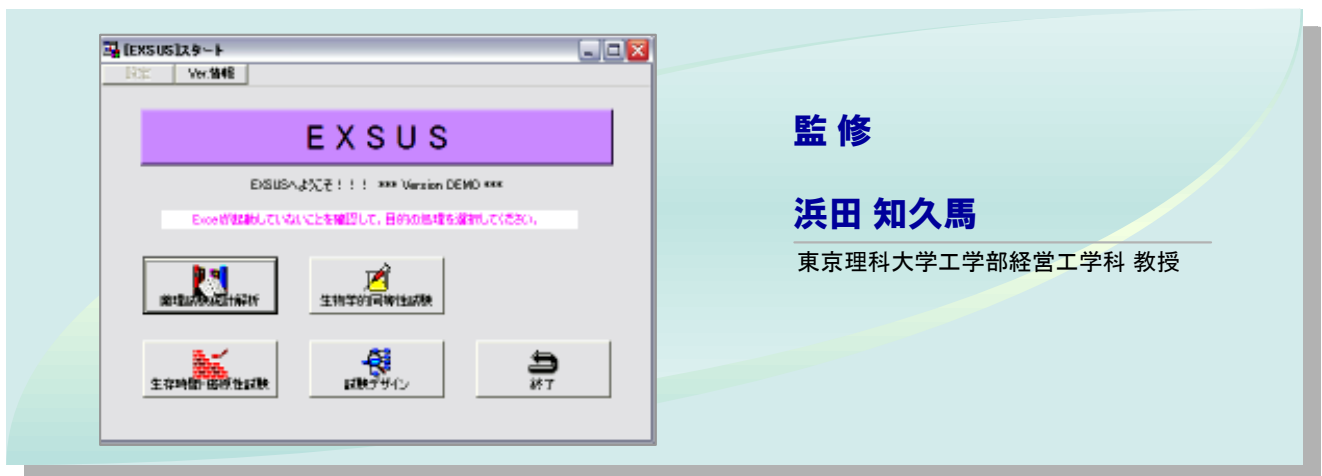


生物実験データ統計解析システム

EXSUS

<イグザス>



監修

浜田 知久馬

東京理科大学工学部経営工学科 教授

非臨床試験及び生物統計で用いる統計手法を網羅。
データタイプごとに適応可能な手法をメニュー構成で表示し、高い操作性と信頼性を実現。
SASシステムをマウス操作で実行する、研究者のための統計解析システム。

EXSUS<イグザス>の概要

SASシステムを意識することなくMicrosoft Excelのデータを
SASシステムに読み込み、その解析結果(統計量・p値など)を
Microsoft Excelに帳票形式で出力します。

ツリー型アルゴリズムによる解析、プロテクトモード、英語化
モジュールをはじめ、バリデーションレポート、IQ/OQ/PQの
CSVサービスなど多彩なサービスメニューで、非臨床開発の
信頼性の確保と効率化を支援します。

<http://www.arm-jp.com>

SAS、その他のSAS Institute Inc.の製品名・サービス名は、米国及びその他の国における米国SAS Institute Inc.の登録商標または商標です。
MicrosoftおよびWindowsはMicrosoft Corporationの米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。



基本プロダクト

【単測定型】

▽等分散性検定 ▽F検定 ▽要約統計量 ▽外れ値 ▽Pearson・Spearmanの相関 ▽studentのt検定 ▽Aspin-Welchのt検定
▽Wilcoxon検定(2群・多群繰り返し)(正確・近似) ▽一元配置分散分析 ▽クラスカル-ワリス検定 ▽ダネットの多重比較 ▽チューキー-レーマーの多重比較 ▽LSD type多重比較 ▽Steel検定 ▽Steel-Dwass検定 ▽Dunnett type多重比較(Joint ranking) ▽Tukey type多重比較(Joint ranking) ▽LSD type多重比較(Joint ranking) ▽Holm (Dunnett型、Tukey型)の方法 ▽FDR法の多重比較(Dunnett Type・Tukey Type) ▽乱塊法 ▽Friedman検定 ▽共分散分析

【経時測定型】

▽経時型分散分析 ▽直交分解型分散分析 ▽経時測定型多重比較 ▽投与前値を共変量とした共分散分析 ▽対応のあるt検定 ▽対応のあるWilcoxon検定 ▽時点別解析 ▽グラフ作成 など

【カテゴリ型】

▽ χ^2 検定 ▽フィッシャーの直接検定 ▽Wilcoxon検定 ▽クラスカル-ワリス検定 ▽Steel検定 ▽Steel-Dwass検定 ▽Dunnett type多重比較(Joint ranking) ▽Tukey type多重比較(Joint ranking) ▽LSD type多重比較(Joint ranking) ▽Holm (Dunnett型、Tukey型)の方法 ▽FDR法の多重比較(Dunnett Type・Tukey Type)

【多元配置型】

▽二元配置分散分析 ▽三元配置分散分析 ▽ラテン方格法

【生存時間解析】

▽カプランマイヤー法 ▽ログランク検定 ▽一般化Wilcoxon検定 ▽生存時間曲線作成

【癌原性試験】

▽Peto検定 ▽Poly-k検定 ▽C-A、 χ^2 検定

【試験デザイン】

▽例数設計・見逃しの β エラー算出(t検定、Dunnett検定、Tukey検定、Log-Rank検定、一般化Wilcoxon検定) ▽無作為化割付(完全無作為割付、層別割付)群サイズが異なる場合も可能

【酵素阻害反応型】

▽競合阻害についてのパラメータ算出 ▽非競合阻害についてのパラメータ算出 ▽不競合阻害についてのパラメータ算出 ▽混合型阻害についてのパラメータ算出

●SAS/INSIGHT接続(ビジュアルデータ探索)など

用量反応関係プロダクト

【単測定型・経時測定型】

▽用量反応関係 ▽ヨンキー検定 ▽Williamsの多重比較 ▽Shirley検定 ▽Shirley-Williams検定 ▽最大対比法(MCM) ▽回帰分析 ▽ED₅₀とその信頼区間 ▽逆推定 ▽平行線検定 ▽効力比 ▽グラフ作成 など

【カテゴリ型】

▽コクラン-アーミテージ検定 ▽Shirley検定 ▽Shirley-Williams検定 ▽LD₅₀とその信頼区間 ▽ヨンキー検定 ▽グラフ作成 など

ツリー型アルゴリズムプロダクト

【6種類のツリー型アルゴリズム】(毒性試験対応可)

▽Type O

▽Type M

等分散性からのズレに重点をおいたMenton氏提案のアルゴリズム

▽Type H

毒性家に直感的に受け入れられる、浜田氏提案のアルゴリズム

▽Type F

2群比較に関する標準的なアルゴリズム

▽Type J

製薬協のグループが中心となって提案したアルゴリズム

▽Type K

食品農医薬品安全性評価センターの小林氏が提案したアルゴリズム

●それぞれ要約出力と詳細出力の2種類の出力形式から選択可能

BEプロダクト (生物学的同等性試験)

▽各種パラメータ計算 ▽2×2クロスオーバー分散分析(対数変換対応) ▽90%信頼区間 ▽信頼区間法による例数設定

●生物学的同等性試験ガイドラインに示される信頼区間法による同等性解析、本試験と追加試験を併合した解析、血中濃度グラフの作成が実施可能

その他、オプション

【プロテクトモード】

GLP,GCP対策として、解析に使用したExcelブックおよびシートを保護する機能。(入出力データをプロテクト)プロテクトを示すロゴは個別対応いたします。

【自動実行モード】

操作一つで、ユーザ指定の検定手法を、データ読み込みから解析結果出力まで自動で実行する機能。社内システムとの連携や、使用頻度の高い検定のショートカット等にご利用下さい。

【英語化モジュール】

Excelのアドインで出力結果を英語表示に自動変換します。

【バリデーション報告書】

バリデーション報告書を作成いたします。

【カスタマイズ】

独自の実験系に対応したデータ解析システムなどカスタマイズも可能